

プロジェクト 環境変化に適応した漁場生産力の強化

目 標

- ・効率的に漁獲できる水産物の資源量 R4：5,350t → R10：5,560t
- ・藻場整備により増加する藻場面積 R4：249ha → R10：313ha

挑戦する内容

- ・魚類の産卵場などに加え、CO₂を吸収・固定する藻場の保全・創造
- ・幼魚などの保護・育成場の創造
- ・漁獲効率が向上する漁場の創造

関係者の声
＝対話

- ・魚などが産卵できる場所を増やしてほしい（漁業者）
- ・稚魚などを保護・育成するための藻場を整備してほしい（漁業者）
- ・効率的に漁獲できる場所を整備してほしい（漁業者）

役割分担

- ・漁協：漁業者の要望・意見の取りまとめ
- ・市町村：地元住民の要望・意見の取りまとめ
- ・産技センター：漁場整備に関する助言
- ・県：事業計画の策定及び施設整備の実施

変革後の姿

- ・CO₂の吸収・固定効果のある藻場の保全・創造
- ・水産生物の幼稚仔の育成場の創造
- ・アイナメ、ソイ・メバル類、ヤリイカなどの沿岸性魚種の資源量の増加及び効率的な操業により、漁業経営が安定

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 魚類の産卵場などに加え、CO₂を吸収・固定する藻場の保全・創造
 - ・10工区で増殖場（藻場）の整備を実施
- 2 幼魚などの保護・育成場の創造
 - ・5工区で増殖場（育成場）の整備を実施
- 3 漁獲効率が向上する漁場の創造
 - ・3工区で魚礁漁場の整備を実施



造成藻場のウスメバル稚魚



育成場に集まるソイ・メバル類

対話

- ・漁協、市町村を参集する実務担当者会議を開催し、事業制度や必要な事務手続き等を共有（4月）
- ・漁協、市町村との意見交換を実施し、地元の要望内容や整備順序等を確認して、事業構築に反映（4月、1月）
- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（7月、1月）
- ・漁協、市町村で構成する管理運営協議会で、意見交換（随時）